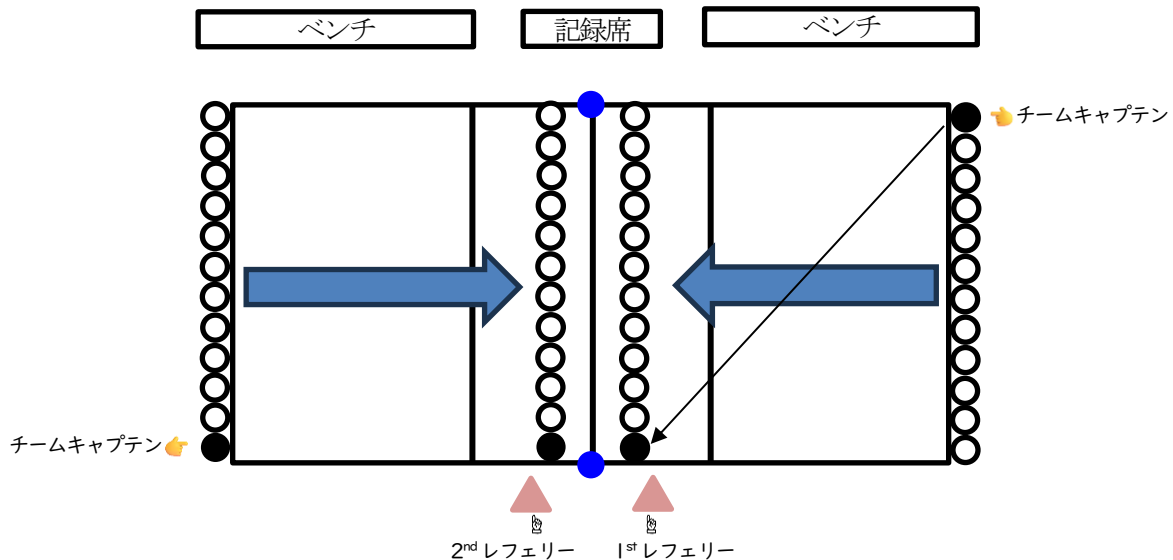


令和7年度 第23回 埼玉県バレーボール協会長杯争奪中学生バレーボール大会 審判上の注意事項

審判部長 三浦 岳彦

- 1 今大会は、2024年度(公財)日本バレーボール協会6人制競技規則ならびに令和6年度(公財)日本中体連における6人制ルールへの取り扱いに原則として則って行う。なお今大会では、チームは、監督1名・コーチ1名・マネージャー1名・選手18名とする。選手のベンチ入りは14名以内とし、13名以上の場合は必ず2名のリベロを登録すること。また、「試合毎にベンチ入りの選手の変更は可」とする。ただし、主将の試合毎の変更は認めない。
- 2 キャプテン・トスは、試合設定時刻がある場合はその11分前に行う。それよりも遅れた場合、または設定時刻のない場合は、前の試合の終了5分後に行う。
監督は記録用紙のチーム・メンバーを確認し、リベロ・プレイヤーの番号を所定の欄に記入した上でサインする。リベロ・プレイヤーの氏名は記録員が記入する。
トス終了後、すみやかにラインアップシートを提出する。
- 3 試合前後のあいさつについて
 - ・チームキャプテンを一番右に、エンドライン上に一列に並ぶ。
 - ・ファーストレフェリー、セカンドレフェリーの吹笛でその場で礼をしてネットまで出てくる。その際、チームキャプテンはファーストレフェリー・セカンドレフェリーの目の前に来る。
 - ①試合前：ネットを挟んで相手チームの選手と握手をしてベンチに戻る。両チームキャプテンは握手の後、ファーストレフェリー、セカンドレフェリーそれぞれと握手をしてベンチに戻る。
 - ②試合後：ネットを挟んで相手チームの選手と握手をしてベンチに戻る。両チームキャプテンは握手の後、ファーストレフェリー、セカンドレフェリーそれぞれと握手をして感謝の意を表してベンチに戻る。



- 4 スポーツマンとしてふさわしくない行為はしないこと。(相手チームに対してのガッツ・ポーズや判定に対する非難や不正な態度など)軽度の不法な行為については、チームに対して警告が与えられる。不法な行為に対する制裁は、その試合を通して累進的に取り扱われる。
- 5 試合中は、ベンチ・メンバーの服装等にも気をつけること。監督などの短パン、ランニングシャツは原則として認めない。また、ゲームに不必要な物の持ち込みも禁止する。また、マネージャーの服装はユニフォーム以外のものとする。

- 6 タイム・アウトは原則、監督のみ要求することができる。選手交代は、交代選手が競技中断中に、コートに入る準備をして選手交代ゾーンに入ること、選手交代の要求となる。そうでない場合の交代は認められない。複数組の選手交代を要求する場合は、連続して選手交代ゾーンに出向くこと。
※タイム・アウトの要求に関しては、取扱いが変更になっていますが、試合経験が浅いことからセカンドレフェリーがまだ不慣れで気づかない場合が想定できます。そのような時には今まで通り、一声かけていただきますよう、お願い致します。
- 7 ユニフォーム等の着替えについては、アリーナ以外の観客の目に触れない所で行うこと。
- 8 リベロの交代方法は、中学生の大会では、交代するペアがサイド・ライン上で静止することなく交代してもよい。この際、交代する選手同士が手を合わせる必要はない。なお、選手交代ゾーンとリベロ・リプレイスメントゾーンとを区別すること。
- 9 ゲーム中のワイピングはコート場の選手が行う。タオルを持っていないために、ワイピングに時間が必要となった場合は、遅延行為となる場合もある。タオルは複数枚用意しておく。
- 10 観客席以外のフロアで観戦している人からのタイム・アウト中やセット間での指導は認めない。また、保護者・応援者からの試合の妨げとなるような行為や審判団（生徒役員含む）への不適切な行為へ暴言等がないように、チームで責任をもって指導しておくこと。
- 11 男女各初日は、帯同審判員制で試合を行う。よってチームは、審判員を帯同するか、監督またはコーチが審判をすることになる。競技規則に出ている審判割り当てに従って審判をすること。ファーストレフェリーについては、お互いに相談して決める。勝ち上がりの結果、自分と同一市町村のチームの試合を審判することもあり得る。この場合、可能な範囲でセカンドレフェリーになるようにする。